



【県の事業】

- 外国人就労者に対する早期適応研修カリキュラム等の作成【新規】
- 外国人向け生活設計支援冊子の作成【新規】
- あいち多文化共生センターの設置・運営
- 多文化子育てサロンの設置促進
- 地域における初期日本語教育モデル事業の実施
- あいち医療通訳システムの運営
- (参考) あいち医療通訳システムについて
- タウンミーティングの開催
- 外国人コミュニティとの意見交換会等の開催
- 外国人県民による地域の魅力発信

【トピックス】

- 日本語教育の推進に関する法律の施行
- 在留資格「特定技能」について
- 外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策

新たに来日した外国人就労者に対する「早期適応研修 カリキュラム」を全国に先駆けて作成しました。

受入企業等が、新たに来日した外国人に対し、生活支援等を円滑に実施するための「早期適応研修」のカリキュラムや、研修で使用する教材・指導者マニュアルを“愛知モデル”として作成しました。

◆学識者、NPO、外国人技能実習生監理団体等の6名を委員とする検討会議を3回開催し、効果的な研修内容の検討を行いました。

◆カリキュラムに盛り込んだ**研修項目**は、日本の習慣やマナー、医療・保険制度、交通安全など厳選し、**研修時間数は企業における取り組みやすさを重視**しました。

◆**多言語の教材**のほか、**企業担当者向けの指導者マニュアル**を作成しました。

◆説明会を**県内3か所**（名古屋市、岡崎市、豊橋市）で**開催**し、受入企業、監理団体、自治体職員、外国人支援者など**計193名**が参加しました。

◆今後は、企業等においてこのカリキュラム等の活用を促進し、広く普及するための取組を進めていきます。

★連携協働団体

（一財）日本国際協力センター中部支所



教材は8言語で作成し、文字だけではわかりにくい項目については、動画も作成しました。



動画の一場面（ゴミの分別）
動画撮影には、愛知県警や企業の方など、多くの方に御協力いただきました。是非御覧ください！



外国人県民が、日本で安定した生活を続けられるよう、ライフプランの設計、社会保険制度などについてわかりやすく伝える冊子を作成しました。

出産、子どもの進学、住宅購入、老後や葬儀まで、ライフイベントごとに必要なお金の目安と、日本の社会保険制度などについて説明し、ライフプランを立てて将来に備えることや社会保険に加入することの大切さなどを伝える多言語の冊子を作成しました。



仕様：A4版12ページ
やさしい日本語ほか6言語で作成

◆外国人支援活動を行うNPOやファイナンシャルプランナー等を委員とする検討会議をふまえ、ニーズが高い項目を選び、わかりやすく掲載するようにしました。

【内容】

- (1) 目次・未来と今のお金について知りましょう
- (2) 出産 (3) 教育 (4) 住宅購入
- (5) 老後（年をとってからの生活費）
- (6) 介護（食事や風呂などの生活の手伝い）
- (7) 葬儀・相続（自分や家族が亡くなったとき）
- (8) 問合せ・相談窓口

◆冊子を効果的に普及し活用していただくため、日本語による外国人支援者向けのライフプラン研修会を県内2か所（名古屋市、岡崎市）で開催し、NPO、学校関係者、自治体・国際交流協会職員など計44名が参加しました。

◆外国人県民が、日本の制度を理解して、安心して生活できるよう、今後も情報提供を進めていきます。

<参加者の声>

- ・「是非外国人の方に伝えたい。自分の人生を考える機会にもなった。」
- ・「キャリアプランニングの研修や授業で活用したい。」



外国人支援者向けライフプラン研修会

★連携協働団体

NPO法人フロンティアとよはし

あいち多文化共生センターの設置・運営



2019年度の取組

2019年4月から、相談体制を拡充し、新たに行政・生活全般の情報提供と相談を多言語で行う一元的窓口「あいち多文化共生センター」を運営しています。

(公財) 愛知県国際交流協会が県三の丸庁舎の「あいち国際プラザ」内に設置、運営していた「多文化共生センター」の相談体制を拡充して、「あいち多文化共生センター」として運営しています。



◆外国人県民が愛知県で安心して暮らすことができるよう、日常生活に必要な情報を多言語で提供しています。

◆複雑な相談を抱える相談者に対しては、関係機関と連携しながら、問題解決に向けた支援を行います。

【2019年度相談件数】 1,912件
(内訳)・情報提供 1,491件

(各種制度の概要や手続きの説明、
専門機関の紹介など)

・通訳・翻訳の依頼 315件
・弁護士相談 53件 など

○多文化ソーシャルワーカーによる相談

【対応言語】 ポルトガル語、スペイン語、英語、
中国語、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、
インドネシア語、タイ語、韓国語、ミャンマー語、
日本語 計12言語

○テレビ電話通訳サービス (11言語)

○多言語翻訳アプリの導入 (74言語)

○出入国在留管理局職員、愛知労働局職員、
県消費生活相談員による専門相談の実施
(予約制)



<相談員より>

住居、離婚、近隣トラブルなどの「生活」に関する
こと、外国語が通じる医療機関の紹介など「医療・
福祉」に関すること、学校や日本語教室など「教育」
に関することなどに多く対応しました。
困ったときには、お気軽にご相談ください。

【相談日時】 月曜日～土曜日

10:00～18:00

※国民の祝日に関する法律に規定する
休日及び年末年始(12月29日から
翌年1月3日まで)を除く。

電話 052-961-7902

★設置・運営団体

(公財) 愛知県国際交流協会



県内の医療機関に通訳派遣や電話通訳を提供するしくみである「あいち医療通訳システム」を運営し、外国人県民が安心して医療機関等を受診できるようにしています。

(別紙により詳細を説明しています)

◆医療機関、保健所・保健センター等からの依頼に応じて、通訳派遣や電話通訳等を実施しました。

【2019年度実績】

- ・通訳派遣 1, 192件
- ・電話通訳 478件
- ・文書翻訳 151件
- ・利用医療機関数 146機関

※通訳派遣・文書翻訳の対応言語は14言語

※電話通訳の対応言語は6言語

◆2019年度は、フィリピン語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語、ネパール語などを母語とする方を対象に通訳者を募集し、語学能力支援、基礎研修（7日間36時間）、認定試験を実施した結果、**4言語6名の方が合格し、医療通訳者として認定**されました。

(2011年度からの累計14言語294名)

◆過去に養成した通訳者に対し、**フォローアップ研修を2回実施し、計61名が参加**しました。



<通訳派遣の様子（イメージ）>



<広報用キャラクター やくすくん>

【参考】あいち医療通訳システムについて



【事業概要】

愛知県、県内市町村、医療関係団体、県内関係大学により構成する「あいち医療通訳システム推進協議会」を運営主体として、利用申込みのあった医療機関、保健所、保健センター等に通訳派遣や電話通訳等を行います。

背景・経緯

外国人県民は医療機関に行く場合、通訳のいる医療機関が少ないなど、言葉の壁に不安を感じています。そこで、外国人県民が安心して医療機関を受診できるよう、県医師会など医療関係団体や大学と連携して、通訳派遣や電話通訳を提供する仕組みである「あいち医療通訳システム」を構築しました。通訳対応のほか、医療通訳者の養成も行っています。

事業内容

【運営主体】 あいち医療通訳システム推進協議会

【設 立】 2012年2月3日

【システムの内容】

- ・通訳派遣（対応言語 14言語）※1
- ・電話通訳（対応言語 6言語）※2
- ・文書翻訳言語による災害情報の提供※1
- ・医療機関外国人対応マニュアル（診療対応等）の提供※2

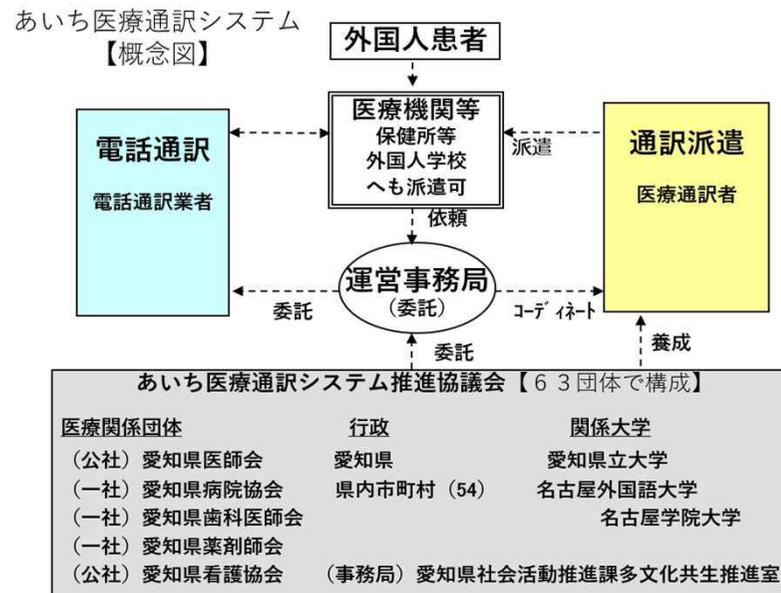
【通訳者の養成】

通訳者を募集し、語学能力試験・基礎研修・認定試験を実施。合格者を医療通訳者として認定。

＜対応言語＞

※1：英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語、ネパール語、マレー語、アラビア語、韓国・朝鮮語、ミャンマー語、モンゴル語

※2：英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、韓国・朝鮮語



県内市町村と連携して、多文化子育ての拠点づくりを推進しています。

乳幼児を持つ外国人県民が、日本人親子との交流の中で、子育てに必要な情報を得たり、子どもに言葉を教えるポイントを学ぶ「多文化子育てサロン」を実施しました。

◆**県内3か所**（豊橋市、江南市、知立市）で**計25回実施**し、乳幼児を持つ外国人県民、日本人親子が**計339組が参加**しました。

◆ゆったりした雰囲気、楽しみながら参加できる内容になるよう工夫しました。

- ・ベビーマッサージやリズム遊び
- ・参加者出身国のクッキング
- ・わらべ歌や絵本の読み聞かせ
- ・応急手当講習
- ・「子どもの言葉」や「母語」に関する講座
- ・子どもの健康や栄養に関する講座
- ・地域の子育て支援センター・図書館・保育園等の訪問

◆はじめは国籍のちがう人との接し方がわからず、戸惑う様子もありましたが、同じ子育て世代として、自然に楽しく活動に参加する姿が見られました。

◆遊びやクッキングのほか、通訳付きで有識者や専門家からの話を聞く講座も人気でした。言葉や文化が多様な親子が、一緒に遊んで学べる場が広がるよう、今後も取組を進めていきます。

★連携協働団体

- ・NPO法人フロンティアとよはし（豊橋市）
- ・江南市国際交流協会（江南市）
- ・NPO法人みらい（知立市）



みんなでリズム遊び♪



親子遊びのほか、子育てや「言葉」に関する情報提供も行いました。写真はA E Dの講習の様子です。



初期日本語教育の愛知モデルである“あいち初期日本語教育プログラム”をつくり、地域での外国人受入れのための社会的な基盤づくりを目指しています。

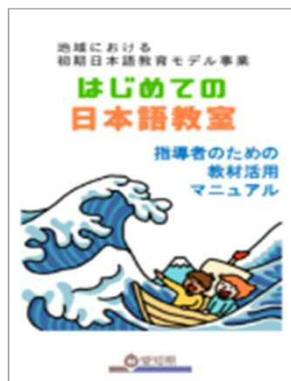
日本語がほとんど話せない外国人県民が簡単な日常会話やひらがななど基本的な日本語を学ぶ初期の日本語教室を、地域のボランティアの日本語教室と連携して実施するとともに、指導者となる人材の養成や学習教材の開発を行いました。

◆2018年度に引き続き、日本語教育に取り組むNPO団体などの専門機関と連携しながら、地域における初期日本語教育のモデルづくりを目指しました。

◆「はじめての日本語教室」は、全27回開催し、来日して間がない外国人県民**42名（総数）**が参加しました。

◆初期日本語教室を実施するための専門的な知識・技能を有する**指導者養成講座を全7回開催し、23名が参加**しました。

◆2018年度養成した指導者向けに**フォローアップ講座を全2回開催し、延べ16名が参加**しました。



◆2018年度作成した学習教材を増補したほか、新たに**指導者向けのマニュアルを作成**しました。

<参加者の声>

- ・外国人学習者：たくさん話すことができた。教室で勉強したことは生活で役に立つ。
- ・養成講座：今までの活動を見直す機会になった。



座学中心ではなく「話す」ことを通じて生きた日本語を身につけました。



指導者養成講座はワークショップを中心に行いました。

★**連携協働団体**：Bri Asia合同会社、東海日本語ネットワーク、名古屋大学、名古屋外国語大学、刈谷市、刈谷市国際交流協会 等

様々な立場の皆さんが、対等な立場で連携・協働するために、愛知県の多文化共生について話し合う場を定期的を開催しています。

◆県内3か所（名古屋市、豊田市、小牧市）で開催し、計134名が参加しました。

◆【名古屋市】（あいちNPO交流プラザ）
テーマ「企業や行政と地域の日本語教室の連携を考える」

参加者 64名（日本語教室関係者、国際交流協会、行政、企業等）

日本語教育に関する基調講演の後、企業、有識者、NPO、行政の立場で日本語教室に関わる方のパネルトークを行いました。

会場の参加者とパネリストとの意見交換では、多くの意見が出され、熱気にあふれていました。



<参加者の声>

- ・立場が違ふとこんなに意見が違うのかと驚いた。歩み寄るのは大変なことだと思った。
- ・現状を多様な観点で知ることができた。企業側の話を聞くことができてとても参考になった。

◆【小牧市】（小牧市公民館）
テーマ「外国人の子どもの就学・学習支援を考える」

参加者 45名（国際交流協会、行政、語学支援員、NPO等）

講師からプレスクール、プレクラスに関する事例報告をしていただいた後、3つのグループにわかれて話し合いました。

様々な立場の方たちが、日頃感じている課題や経験などを共有し、今後やってみたいことなどを出し合いました。



- ・他の地域の取組を知り参考になった。もっと知りたい。
- ・私たちに「できること」、「単独ではできないこと」、「やってみたいこと」を明確化できた。

◆【豊田市】（豊田市民文化会館）
テーマ「多様性あふれる若い世代とつくる、これからのまち」

参加者 25名（国際交流協会、行政、NPO、学生等）

愛知県芸術劇場との共催で、身体を使って気持ちや考えなどを表現する「演劇ワークショップ」を行いました。

多様な世代・国籍の方が参加して、ゲームを交えながら、なごやかな雰囲気が進められました。



- ・演劇の手法で「多文化を自分ごととして考える」という活動が、とても新鮮で、新しい発見がたくさんあった。



外国人コミュニティと連携して、情報提供や意見交換を行ったり、先進事例の紹介などを行っています。外国人コミュニティにおける交流の場づくりやコミュニティの中心となる人材育成を支援しています。

◆県内3か所（名古屋市、豊橋市、春日井市）で開催し、計79名が参加しました。

◆【名古屋市】

（宗教法人名古屋イスラミックセンター
名古屋モスク）

テーマ「進路についてかんがえよう」

参加者 31名（モスクに通う家族等）

愛知県職員からの、進路選択や教育にかかるお金に関する情報提供の後、大学進学をした学生の経験談を聞きました。

進学に関する情報収集の方法や相談先など、多くの質問が出されました。



◆【豊橋市】（県営金田住宅）

テーマ「多文化が共生できる地域づくりを考える」

参加者 30名（自治会、行政、国際交流協会、地域住民等）

※愛知県県営住宅自治会連絡協議会との共催

講師からの現状報告の後、グループにわかれて課題認識と解決策の検討を行いました。

生活ルール、防災、自治会活動などの課題が出され、多様な主体との連携・協働の必要性を再認識しました。



◆【春日井市】

（ダールルイーマーン春日井保育園）
テーマ「ムスリムママのための「栄養・健康」ワークショップ@春日井」
参加者 18名（保育園に通う子どもと母親のムスリム女性）

春日井市保健センターの栄養士を講師に迎え、「栄養・健康」に関する情報提供などを行いました。

外出しにくいママたちが専門家から話を聞く良い機会になりました。





外国人県民が自ら住む地域の魅力や自分の経験等を発信する機会を設ける取組を推進しています。

日本で進学・就職した外国人県民の事例紹介動画の制作に協力し、「多文化共生フォーラムあいち」等の場で発表しました。

◆「教えて先輩！～進学について～」という動画の制作に協力しました。

(制作：Man to Man 株式会社)

ブラジル人の子どもの「先輩」たちをインタビューし、彼らのキャリアについて紹介しています。

◆この動画は、子どもの保護者に、進学に対する理解を深めてもらうことを目的として制作しました。学校関係者、企業を始め広くこの地域の皆さんにも観ていただき、外国人県民の進学・就職に対する理解を深めていただきたいと思います。

◆動画は、県主催「多文化共生フォーラムあいち2019」において発表しました。YouTubeでも公開しています。

県内のブラジル人学校に周知し、キャリア教育の授業や保護者会などにも活用していただきました。



案内チラシ (抜粋)



動画の一場面